令和６年度第１回大阪府立図書館指定管理者評価委員会議事概要

日　　時：令和６年７月１９日（金）15時00分～16時00分

場　　所：大阪府立中央図書館　２階多目的室

出席委員：大久保委員長、川瀬委員、関野委員、西村委員、帆足委員

１　開会

２　協議事項

・図書館指定管理運営業務の評価方法について

・令和６年度府立中之島図書館及び府立中央図書館指定管理運営業務の評価について

《質疑応答》

委員：提案書等に数値があるものについては、一番最初の時に提出していただいたもので、コロナの前なのでその時の状況を前提にしているということがあり、その後コロナですごい影響を受けた部分があるので、そのまま通用させていいのかどうかというのがまず問題意識にある。その上で、前年度の実績が既に目標値を上回っている場合には、コロナの影響というのはあまりないと考えて、むしろ前年よりもダウンさせるような目標を立てることはよくないので、前年度実績は超えてくださいという形にされている。逆に提案書の方、その逆になっている場合には、平成30年度と令和5年度の分を比較して、その比率割合分を掛けた分だけ伸ばすということか。要は利用者の方が、どれだけ来られるかというところがもとにあるので、来る来ないという、現象自体は一つなので、提案書に記載のあるものに関しては、提案書の実績そのまま採用して令和5年度の実績を前提にする。または比率を掛けるっていうことをするのが果たして実態の評価として合うのかどうかがよくわからない。そのあたり何か議論されたことがあるか。

事務局：一度、実績が上へ上がると、そこを下げるのは違うと思っており、実績が上がってるものについては、その実績数値、ホールなど、目標値に満たないところについては、実際にまだ職場に出ず、在宅勤務などもあって、顔合わせて会議がなかなか行われていない状況もあり、比率を掛けて目標値を設定するということで、この目標を掲げて設定をした。

委員：確かに来館者の方っていうのは元々図書館に興味があって来られる方も多い。「コロナの影響

がなくなれば、心配なく行ける。」ということで来るかもしれない。他方、多目的スペースなど

で会議するとなると、社会的な様式自体に変化があり、もうコロナの影響というよりもそちら

の方に固定化されてしまっているという面があるのでその辺も考えた方がいいという違いが

あるということか。

委員：去年の実績値を使うのは、去年の委員会で5年の平均を取ると、コロナの時が3年分ぐらいあり去年より目標値がかなり低くなるので、平均を取るより去年の実績値を目標とするという理解でよろしいか。

事務局：目標値を下げるのは、よくないと話し合いを行った。年々、いろいろと事業をやっていくにあたって、一歩でも二歩でもということで目標設定させていただいているところ。

委員：令和6年度始まって少し経ってますが、この数値を達成できそうな状況なのかどうか。現在どういった状態にあるのか。

事務局：今年度の状況については把握をまだしていない。

委員：令和5年の実績が下回ってる部分について、目標値は提案書数値に令和5年の来館者数と平成30年の比率を掛けている。つまり提案書の数値を補正し、下げているということ。上回っているところは他委員が質問され、納得した。その設定方法だが、例えば、中之島であれば多目的スペース、中央図書館であればホール、大会議室。会議室を補正されている。それが来館者数に比例しているのかがわからない。それが本当に実態に即した補正なのか。去年、コロナが５類に移行され、コロナの影響がなくなってきた。例えば計画数値の令和6年分の中之島図書館の多目的スペース1であれば、43％は全くコロナの影響がなかったとすれば、そのままの数値を設定するのが妥当ではないか。入館者数に比例してるから補正するという積極的な補正理由を説明していただきたい。

事務局：妥当性については確かにどこまで正しいかはわからない。ただ入館者数などのホール利用率などがコロナ禍を経て、生活変容や様式の変容で、オンラインや図書館の利用方法なども変わってきたというところで、入館者数も合わせて同じくらい下げることも目標値としては可能ではないかというところでさせていただいた。

委員：前の提案書の時の令和6年の提案数値を補正される理由は何か。

事務局：実績があまりにも乖離していた。例えば中之島の多目的スペース１の令和５年の実績値は14.5％だが、Ｒ3からＲ7の目標値は30％超えとなっている。本来は戻したらいいかもしれないが達成が難しい値を目標にすると乖離が大きすぎる。例えば中之島図書館の多目的スペース３でもなかなか上向きになっていない。委員のおっしゃるとおり。だが、今まで経験したことのないコロナの変容もあるかと、私どもの方で勘案した。

委員：私の意見としては入館者数比率で補正するよりは、もうほとんどコロナの影響というのはないので、その元々の提案書の数値を目標にするのがよいと思う。

委員長：コロナの影響が令和5年はもう感染症の5類に今引き下げられたものの、意識的には集合したり、外に出向くことに対する若干の壁のようなものが意識の中にあって、令和5年の実績も比較的低いが、この令和6年の目標設定においてそのことをどれぐらい汲み取った目標設定にするのか。５類になってから1年経ち、意識も変わっていってる中で、どれぐらい平成30年と令和5年の実績比率を適用させるのか。

 この中之島の資料6－2で多目的スペース1に関して令和5年は14.5％だが、令和4年の実績は26.7％と高く、多目的スペースでも令和5年は5.4％、令和4年は22.7％と高いがなぜか。

事務局：令和4年度は、いろいろな大きなイベントで長い期間借りていただいた上に、展示会もあり、この数値となっている。

委員：それはコロナの影響なく、そのようになっているか。

事務局：はい。

委員：それがコロナとは関係なく実績に反映されている。だから余計何か補正する方が違うような気がする。

委員：根本的なことだが、8.9％であろうが7.3％であろうが、図書館の入ってくるお金とか、利用回数で見ると、大して差がない。その中で7.3％しか利用されてないことを考えて根本的に使い方を考えた方がいい。10％ぐらいしか使われてないものをこのまま置いといていいのかという議論の方が大事な気がする。

委員：おっしゃっていただいてるとおり、根本的なところの見直しが必要。

 今回、実績比率87.5％乗じるが、令和7年はどう考えるか。

事務局：今までの稼働率が低い部分についてはコロナも勿論あったが、大規模な改修工事の影響で騒音や振動などで実際に利用できない期間があった。そういった工事の影響が今年度で終了するので、令和7年度は改めてこの目標に向けて動いていく。

委員長：稼働率が悪いのはコロナの影響云々ではなく、工事に関わる事項で実績が悪いという可能性があるか。それが今年度に終わられる。その複合的な部分がある。工事の影響で使いづらさなど館全体に影響する。中央図書館に比べて中之島の数字がそういった理由で低めになっていることもある。工事の影響は予測され、目標に考慮されていたか。

事務局：そこの部分は考慮していない。

委員長：不確実だったため、そこは考慮されていない提案で、条件が後から変わってきている部分がある。このような状況で今回の実績比率を用いて87％や87.5％や80.5％を掛けていくということでよろしいか。

委員：そもそもの会議室等の使い方を考えた方がよいかと思う。

委員長：その問題については次の機会で。他に何かないか。なければ事務局の提案に基づいて、評価委員会でも合意し、特に修正は行わないこととする。

異論なし、異議なしということで良いか。

（異議なし）

３　閉会